

## どっちが生徒会長になっても

生徒会役員立候補者の届出用紙（公約用紙）が私のもとに届きました。早速読んでみました。さすが立候補するだけのことはありますね。北中をよりよくしていこうと、積極的に考えてくれています。校長として感謝したい気持ちです。その中で、会長立候補者二名の公約を読んで思ったことを今日は書きますね。

二人とも「あいさつ」を大切にしようと考えていますね。北中をより明るく、より安心できる学校にするために、「あいさつ」を切り込み口にしています。どのように北中のあいさつを盛り上げようとしているかについては、二人の間に違いはありませんが、二人が目指すものは同じです。どちらが生徒会長になっても、思いは二人分だと言えるでしょう。

もう一つ、二人の思いに同じものがあります。それは、「北中のあいさつを盛り上げるために掲げたそれぞれの方策（手立て）は目的ではない」ということです。

立候補者のＹＳ君は届出用紙の中で、「あいさつを通して、新しい仲間同士でお互いのことを知るきっかけ作りをします」と書いています。もう一人の立候補者ＡＳさんは、「すれ違ふときも、朝も帰りも楽しく明るくあいさつを活発化させ、あいさつのあふれる北中に発展させたい」と書いています。

つまり、二人とも日常生活の中であいさつが盛んになることを目指しています。キャンペーンを初めとする特別な取り組みをこなすことが目的ではないということです。ここが肝心です。方策は違っても、その方策をとる目的、ここで二人は競ってほしいですね。どれだけ熱い思いをもっているかで。

私はこの二人のどちらかが会長になったときの三年生全体のバックアップが成否を分けると思います。最上級生全員で北中の日常のあいさつを盛り上げようとするかどうか。頭脳は会長かもしれませんが、実働部隊の最前線に立つのは、学校の顔である三年生全員だと思います。三年生の皆、どうかな？（六月五日 記）



公約を真剣に読む生徒たち